

MECCだより

武蔵野・多摩環境カウンセラー協議会広報紙 第15号 2007年11月

もくじ

| | |
|-------------------------------|-------------------|
| 巻頭言・「白神山地と屋久島」 | 藤野 良洋 |
| 写真展『狛江の水風景 - 今昔』 | 松島 正 |
| 小平市の地球温“断”化への取り組み | 小平市環境部環境保全課 島田 義之 |
| 2007年度井の頭池の外来魚釣りによる生態調査報告 | 糸井 守 |
| 新しい水質改善方策「井の頭池野菜いかだプロジェクト」を開始 | 糸井 守 |
| 「都心河川フォーラム2007」実施の報告 | 糸井 守 |



巻頭言「白神山地と屋久島」

MECC理事 藤野 良洋

「白神山地」と「屋久島」が世界自然遺産に登録されていますが、両者には自然保護の考え方に大差があります。平成11年5月に屋久島で世界自然遺産登録を記念し、鹿児島県の主催で皇太子殿下・妃殿下をお迎えして「世界自然遺産会議」が開催されました。小生は鹿児島県から出席しました。会議には白神山地がある秋田県・青森県からも代表者が出席されていましたが、その席上で明らかに姿勢の差がありました。その違いは現在でも変わっていないように思います。ここでは「白神山地」と「屋久島」の姿勢の違いを述べてみたいと思います。皆様にそれぞれ賢明なご考察をして頂ければ幸いです。

「屋久島」 離島の過疎対策が前面に出ており、商売と如何に結び付けるかに力点が置かれています。文部科学省や鹿児島県等の公共事業で箱物や道路拡幅工事が猛烈に進み、今やホテル、土産物・飲食業者や商業ガイドが無制限に活動しています。自然保護・原状（現状ではありません）回復保護という視点よりも、押し寄せる観光客を如何にさばくかが焦点となっています。そのため、有名な「縄文杉」への登山ルートを新たに開削しようとすら公言されています。

小生は十数回屋久島の山々を縦走しましたが、古い火山島である屋久島は土壌保持力が極めて弱く、山は荒れ高層湿原は登山道等からの土砂流入により年々縮小しています。また、山中は宿営も排尿・排便も禁止ですが現実には放任状態で、あちこちに垂れ流し状態です。

「白神山地」 会議の席上でも明確に「観光客の増加は期待しないし歓迎しない」どのような有用微生物が存在しているかも明確でないから次世代にこのままの姿で引き継ぎたい」と意見発表されました（最近も寒冷下で働く酵母菌が発見されました）。この姿勢は現在も全く変わらずむしろ強化されています。自然遺産登録地域の核心部分には約20のルートが設定されていますが、登山道整備や標識整備は取って行われておらず、また秋田県側からは一切入山できません。青森県側からも入山は事前許可申請が必要で、原則として学術研究・調査に限定されています。商業ガイドも多数存在していますが、核心地域への入山ガイドは自主規制により受け付けません。

皆さん、どちらが「世界自然遺産」のあるべき姿でしょうか？

写真展『狛江の水風景 - 今昔』

松島 正

狛江は多摩川と野川に挟まれた、全国で3番目に面積が小さい市(6.4Km²)です。国分寺崖線が世田谷区との境界を走っていて、昔から湧水が豊富で、昭和30年代には田畑などの自然があって水風景は身近な存在でした。都市化が進んで、地下水の涵養も十分でなくなり、湧水は枯渇しました。

私が参加している、狛江市環境保全実施計画の実践組織である水ワーキンググループは平成12年秋から活動を開始しています。今回「狛江の水風景 - 今昔」写真展を初めて開催しました。市役所ロビーで4日間、西河原公民館で5日間開催し、大勢の来場者



がありました。事前に開催情報が市広報紙一面に掲載され、また朝日新聞地方版でも紹介記事が掲載

された効果がありました。

小平市の地球温“断”化への取り組み

1. 現状

小平市では、こだいら21世紀構想「躍動をあたに 進化するまち こだいら」を基本構想とし、環境の視点では地球環境への配慮のあるまちを目指しています。

しかし、社会の発展に伴う廃棄物や大気汚染、緑の減少などが環境への負荷を増大させ、今や地球規模で環境問題が発生しています。中でも地球温暖化は、京都議定書が発効し、日本は温室効果ガス排出量を6%削減へ目指しているにも関わらず、8%増加しています。

小平市役所としても全ての事務事業から排出される温室効果ガスの削減目標を定めた「エコダイ

狛江の自然のせせらぎと湧水の復活を目指して、今昔の姿を比較して展示し、地域のマップにその場所を明示しました。昔の写真を所蔵する方にお借りしたり、当時のお話を伺ったりして



準備しました。また他市の豊かな小川を見学した写真も展示しました。写真総数はパネル16面に120枚になりました。

来場者のアンケートで好意的なアドバイスや激励のコメント

を数多く頂き、音声や映像による案内の要望や水辺マップの頒布希望もありました。メンバーは次回の企画に向けて大いに勇気付けられました。



小平市環境部環境保全課 島田 義之

ラ・オフィス計画」が策定されています。平成12年度を基準として平成21年度までに6%削減が目標となっていますが、平成18年度は2.2%の増加となりました。主な増加原因は、地域センターなどの新施設、土曜開庁などの新規事業によるものです。

2. 地球温“断”化対策

今後ますます温暖化が進み、私たちの生活に及ぼす深刻な影響(異常気象、食料問題、感染症など)は増大するでしょう。早急に地球温“断”化対策が必要であり、相当な覚悟した取り組みを実行していかなければ、温室効果ガスの削減を達成

することは難しい。今まで以上に、市民・事業者・市が一体となり、一人ひとりのライフスタイルを見直すことが必要になっています。

そこで、小平市では太陽光発電などの新エネルギーの導入やアイドリングストップ装置の設置による省エネルギー化、緑のカーテンなどの水と緑の保全、環境学習の充実などを重点に地球温“断”化対策に努めています。さらにエコダイラネットワーク（市民版環境配慮指針を作成した市民グループ）による環境活動への支援の充実やNPO法人武蔵野・多摩環境カウンセラー協議会等のNPOとも連携を強め、省エネに向けた取組みを推進していますが、なかなか目に見える成果をあげるに

は至っていないのが現状です。

しかし、小平市には、人と自然が共生し育んできた玉川上水や雑木林などの緑豊かな自然を保有しており、この貴重な財産、「美しい小平」を次世代の子どもたちに引き継ぐことが、私たちの責任と考えています。

平成20年度に、「(仮称)小平市地域省エネルギービジョン」が策定されます。地球温暖化防止を含んだエネルギー対策の推進を図るために、削減目標のある小平市の将来像を定めたものと考えています。市民・事業者の皆さんとともに実効性のあるビジョンを描いてみたいと思っていますので、ご協力をお願いします。

2007年度 井の頭池の外来魚釣りによる生態調査報告

糸井 守



井の頭池における外来魚ブルーギルとブラックバスの、釣りによる本年度の生態調査は、7月から8月に

かけて3回実施しましたが、昨年度同様に大増殖しており、合計818匹(ブルーギル:756匹、ブラックバス62匹)の釣果がありました。小学3年生女子の釣り初心者でも3時間で40匹くらい釣り上げており、外来魚の魚影の濃さが検証されました。

特に本年はブラックバスが多く、陸上からの観察

調査でも、昨年より1ヶ月以上も早い5月中旬頃から観察されていました。増えた原因は、春から初夏にかけて好天続きで気温も高く、生育条件がよかったことも大きな要因と考えられます。相対的に在来種であるスジエビやモツゴなどがほとんど見られなくなっていました。

外来生物法の特定外来生物に指定されているブラックバス、ブルーギルの駆除については、宮城県伊豆沼方式や皇居の電気ショッカー方式、一般的な投網方式等があります。しかし、経済性、環境影響性、取扱性等の観点から、釣り方式による方法は、地域住民参加や環境学習等も合わせて行えるので、よい方法であると考えられます。来年度も引き続き調査を実施する予定です。

新しい水質改善方策「井の頭野菜いかだプロジェクト」を開始

糸井 守

井の頭池の水質を改善して、人々が親しめる清らかな水辺環境を創ろうと、「井の頭池野菜筏プロジェクト」が発足しました。野菜による池の汚れを吸収して水質を改善しようとするもので、「空芯菜」を主に考えています。空芯菜は近年、日本で栽培(四国や千葉県等)され、一般の八百屋さんでも販売されて多くの人に食されるようになった

野菜ですが、窒素やリンの吸収力が高く、その上カルシウムやビタミン類が豊富



空芯菜

に含まれている野菜です。つまり、池の水を浄化すると同時に食料としての野菜をも生産収穫するという一石二鳥の新しい考え方による事業です。

このような形態は、市民参加型事業としても非常に有効な機能を果たすと考えています。ただし、空芯菜は気温が25度以上で活発に生育するので、5月から10月くらいの季節がよく、11月から4月頃まではクレソンを育てる予定でいます。

「野菜いかだ」は、外側を塩ビパイプで、内側を十字の木枠を組みその中にカゴを乗せ池に浮かせて空芯菜を栽培していくという方法です。10月16日に陸上実験用1基と井の頭池に3基の計4基を制作し、それぞれ設置し空芯菜を植栽しました。

なお、このプロジェクトの推進主体は、市民環

境団体である「神田川ネットワーク」と地域事業者団体である「東京吉祥寺ライオンズクラブ」ですが、多くの地域住民や学生の皆さんと一緒に協働・連携して進めて参ります。

今後、空芯菜を栽培していくと同時に6種類の水質検査を実施していく予定ですので温かく見守っていただければ幸いです。



「都心河川フォーラム2007」実施の報告

糸井 守

MECC協賛による「都心河川フォーラム2007」(実施委員長:糸井守)が平成19年10月13日の午後から法政大学外壕校舎にて開催されました。

本年は“ポスト都心河川!いま、何が必要か?”をテーマに、150名の参加者を得て推進しました。プログラム内容は下記の通りです。

～プログラム～

- 第1部 東京の河川をめぐる新しい動き(話題提供) 13:30-14:30
- ① 都心河川を賑わいの場と観光資源に!
報告者:長崎純一(東京都産業労働局観光部副参事)
コメンテーター:陣内秀信(法政大学大学院エコ地域デザイン研究所所長)
 - ② 市民と共につくる明日の東京の河川
報告者:宮本恭介(中央区土木部参事)
コメンテーター:神谷 博(法政大学大学院エコ地域デザイン研究所研究員)
 - ③ 川と岸辺から考える景観作り
報告者:鹿野陽子(東京大学大学院農学生命科学研究科)
コメンテーター:川西崇行(慶応義塾大学文学部講師)
- 第2部 分科会(ワークショップ) 14:45-15:55
第1部のテーマ毎にワークショップ
発表・質疑応答・まとめ 16:00-17:00
交流会 17:15-18:45

3つの話題提供とそれをもとにしたワークショップ検討の結果、舟運や地域振興事業策、憩い潤いふれあい創出への水辺環境改善、流域全体の景観形成、水質改善等と、それらを進める市民・行政・事業者の協働・連携のあり方など、多様か

つ刺激的な討論が活発になされ、多くの成果と参加者からの賞賛の拍手のうちに終了しました。終了後には眺望の良い26階ラウンジに移り、個人・団体の活動などの交流・懇談に花を咲かせ、午後7時過ぎに終了し、散会しました。

編集後記

市民パワーがもりもりと盛り上がっているのを実感する今日この頃です。MECCの原稿からもそれがうかがえます。向かっていく一つの目標がきまると強い私たち日本人です。かつて経済成長に目をきらきらさせてい

た私たちが、これからはよりよい環境をみんなで作って出すという一つの目標に向かって、目を輝かせて進んでいくといいですね(Y.N)

発行者 : NPO武蔵野多摩環境カウンセラー協議会(MECC)事務局
180-0023 武蔵野市境南町 1-30-1 &FAX :0422-31-7200
電子メール : QWK11724@nifty.ne.jp
ホームページ : <http://www.mecc.or.jp/>